

EPICURIUS

エピキュリアス

イタリア版のお歳暮

チェスティ・ナタリーツイ

12月、街中が少しずつ華やかになってきましたね。イタリアでは12月8日(Festa dell'Immacolata/聖母マリアの無原罪の宿りの祝日)から本格的なクリスマスシーズンに入り、この日からツリーの飾りつけなど、準備を始めるのが伝統となっています。イタリアではクリスマス時期に家族や友人とプレゼントを交換するのとは別に、お歳暮に似たものを贈る習慣があります。今月のEpicuriousは、このイタリア版お歳暮について書いてみようと思います。

Cesti Natalizi(=Christmas Basket)

イタリアのクリスマスシーズン、スーパーや食料品店を訪れると大きな箱が高く積み上がっているのが見受けられます。これらはイタリア語で「チェスティ・ナタリーツイ」と言って、直訳するとクリスマスバスケットです。個人的な好みを知る親しい間柄で交換するクリスマスプレゼントとは少し異なり、その年にお世話になった人に贈るもので、日本でいうお歳暮に近い存在です。ご近所や家族ぐるみで付き合いのある人に贈ったり、企業では経営者や上司が「この1年も我が社のために頑張ってくれてありがとう」という感謝の気持ちをこめて従業員に贈ったりするのがメジャーだそう。

チェスティ・ナタリーツイの中身の例：

- ★ミラノ発祥の「パネットーネ」やヴェローナゆかりの「バンドーロ」、ヌガー菓子の「トローネ」などをスプマンテと一緒に詰め合わせる。
- ★大晦日の食卓に欠かせないモデナの伝統料理で、骨を抜いた豚の前足にミンチを詰めた「ザンポーネ」や、豚の腸に詰め物をした「コテキーノ」に、付け合わせとなるレンズ豆を添えて。
- ★オリーブオイル、トマトソース、チーズ、生ハム、サラミ、パスタ、コーヒーなど、定番食材の嬉しい詰め合わせも。



価格帯は日本円で2000円~5000円ほど。安いものはカラフルにプリントされた段ボール箱入り。高級なデリカテッセンでは、籐で編んだかごに入れ、素敵にラッピングしてくれます。

この習慣はキリスト教が普及する以前の起源200年頃、ローマの収穫感謝祭で、草木を編んだかごにオリーブなどを入れて贈り合ったのがルーツだと言われています。



チェスティ・ナタリーツイの出てくる映画

1956年のイタリア映画「鉄道員」の中で、クリスマスの日に鉄道機関士の主人公が食べ物とワインを職場からもらってくるシーンがあります。第二次世界大戦後の貧しい時代にも、チェスティ・ナタリーツイの温かい習慣があったことが伺えます。切なくて心に沁みる系の映画、当時のイタリア庶民の暮らしもよく映されています。



ギフトにはモダンなプロセッコを…

スット(ヴェネト州)

プロセッコ エクストラドライ

【タイプ】白泡・辛口 【格付】DOCプロセッコ

【品種】グレラ100% 【Alc.】11%

【参考上代】★750ml(6本/cs)：¥2,450(税別)

★200ml(24本/cs)：¥1,050(税別)

桃や洋梨の香り、細やかな泡。バランス良い味わいで残糖度は14g/l。SUTTO社はワインづくりの他、ホテルやレストランも経営。彼らの4つ星ホテルで供されるワインは高品質かつモダン。

